

イカナゴ資源管理推進調査

林茂幸・山田大貴・勝田孝司¹⁾

1)津農林水産事務所

目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については、適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等、翌年漁期を考慮した資源管理を行ってきたが、近年資源減少が著しく、平成28年から解禁見合わせが続いている。資源の早期回復を図るため、資源状況を把握するための調査を実施し、自ら資源管理に取り組む漁業者に必要な情報を提供することを目的とする。

方法

1 夏眠魚調査

伊勢湾口の出山海域(神島の南東約10km)及びその周辺海域において、親魚となる夏眠魚をから釣りにより定量的に採集し、分布密度、魚体サイズ、肥満度、年齢組成等を調査した。(実施時期:5,6,7,9,11月)

2 イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い、イカナゴ仔魚の加入時期、発生量、成長量等を把握し、解禁日決定の資料とした。(実施時期:1~2月)

結果および考察

1 夏眠魚調査

2017年5月の調査での採集尾数は2尾/kmと前年(30尾/km)の結果より少なく(図1),その後も6月0尾/km(前年2尾/km),7月0尾/km(前年8尾/km),9月0尾/km(前年-)、11月1尾/km(前年-)と、採集尾数は低調であった。

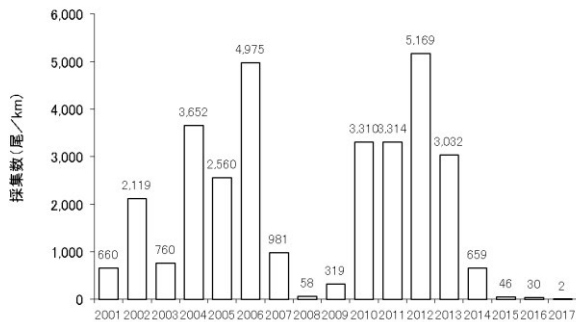


図1. 出山海域における夏眠魚採集尾数の推移 (5月下旬又は6月上旬採集 ※2015年は7月)

また、9月には調査定点以外に水深などが異なる水域にて追加調査(6地点)を実施したが、採集することはできなかった。

2 イカナゴ仔魚分布調査

2018年1月12・13日及び2月14・15日に伊勢湾全域において実施したボンゴネットによるイカナゴ仔魚の分布調査では、仔魚は採集されず仔魚の加入は極めて悪く、過去の仔魚採集量の結果(表1)からも、2018年漁期の資源量については、解禁を見合わせた2016年、2017年漁期以上に低調となることが予想された。

表1. ボンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

年	調査日	単位:尾/m ²				解禁日	加入量 (億尾)
		1月上旬 伊良湖前	1月中旬 伊勢湾平均	1月下旬 全湾平均	2月上旬 伊勢湾平均		
2008	H20	145	55	18	13	3月2日	180
2009	H21	0	8	3	1	3月8日	44
2010	H22	643	236	216	310	3月3日	504
2011	H23	78	195	62	30	3月11日	283
2012	H24	141	118	60		25 3月8日	321
2013	H25	233	71	21	27	2月28日	302
2014	H26	815	26	70	29	3月2日	292
2015	H27	57	40	1	3	3月6日	89
2016	H28	0	0	0.07	0.04	見合わせ	-
2017	H29	0	0.02	0	0.02	見合わせ	-
2018	H30	0	0	0	0		

※2017年1月下旬の全湾平均は、1月31日に愛知県が調査した三河湾と2月2-3日に三重県が調査した伊勢湾の結果を併せ1月下旬の値としています。

加入資源量の主な減少要因としては、夏眠魚調査の結果などから、親魚量不足に起因する可能性が大きいと思われる。これまでイカナゴの資源管理については翌年度親魚量20億尾をとり残す、とり残し資源量一定方策が行われているが、2017年漁期も禁漁としたものの、2017年漁期の解禁見合わせ決定時点において、既に20億尾を下回っていたことも考えられる。

なお、2018年漁期も三重・愛知漁業者の協議によりイカナゴ資源量が極端に少ないとの判断から、来漁期のための親魚を確保するために、2016年、2017年漁期に続きイカナゴ漁の解禁が見合わせられた。